

あるものを愛するに如かずと是を以て赤坂は應來妓の多  
く繁昌して駄客の多きを証しぬといへり實は然ることあ  
るや妓よして娼娼にして妓あらめ其俠あく風致あく氣韵  
あきひ言ふまでもあかりし事おして艶件の新紙お續出し  
聲譽の如何に係らず頓倒止まざるお所以も浮ひた家業と  
て怪むお足りぬべし

菟蓐嶋 菟蓐島は靈岸島の地にして俚誘なり其富嶋町に  
歌妓巢窟をあしぬれば菟蓐嶋藝者と稱呼ことゝありたり  
東京中柳巷多く烟華場多きもこの地ばかりの通の通粹の  
粹とでもいへる客あられて一遊を試むるもの稀ある位に  
て或の妓ありといひ訝るものも多かるほどなれども其  
歌妓の已に古くして幕府時代よりありしあり今日に至り  
て殊お繁昌あすといふにあらざるも四季冷熱あく依然

として平康をあしぬ其妓流たる敢て嬌眸秀眉の愛すべき  
ものあらぬも頗々往來去て厭ふべきの陋風少あく其技超  
絶舞踏搥鼓弄絃に巧あるもの殆んどあきといふも可なる  
が如きも亦其滑稽洒落なるの劇場の半道お似てければ越  
席にありて興を助くるの間は同く妙趣ありて頗る伶俐あ  
るものありおき但其人に嬌媚しつゝ、柳の將又靡んとする  
は菟蓐島の名お因縁したるの事あらめうしと思ひつるあ  
り

深川 妓の巢窟を仲町といふこの地は妓ありしに百餘年  
の昔よりの事おして其ころ狹斜の最あるもの七所ありて  
繁昌したりしが昔おかはる今日の開化今は土橋の雨は行  
吟俠の聲もあど絶えて送り迎への船まくら菜花舞蝶の荒  
圃とありて遂お今日の寂寥を來しよける抑もこの地の妓

の二通証書とて色と藝とを兼ね賣りて其こる通言羽織と  
 かんよべる歌妓の如きの情濃こほろにして義侠あり誠に江戸子  
 を以て客に接し洒落に遊興を助けたりとか今の因循おんじゆんな  
 がを姑息こそくお陥おとりて更さらに世の開明を知らざるか進んで深  
 川歌妓の名聲を高かめんことかと思ひあさいるが如く總ま  
 て時機ときも後れ當時の風俗を解せざらめかしも高尚にして  
 可憐こひんある風ありてよく客と接するの道を知れるの大おほく感かん  
 賞しょうしぬる處あり

この各柳巷にの歌聲家を連ね舞影戸を比べてければ老妓  
 もあるべく名妓もあるべし立應來妓もあるべし其老妓と  
 の齡よ二十八八九以上よして春色較遅暮ぼも屬ぞくし或あるは一とたび  
 歸良して復またび妓籍に入りしもの等をいへるからめ然れば  
 多少の世故よこも遭遇そうごうしてければ風流老爛らうらんの態さま年少せうしやうき妓流の

無味淡泊なるものよ勝れる万々なるべけれ故ゆゑにこの老妓  
 の中にの一曲の妓望を収攬しゆらんし大姐おほあはたるの權力を占め衆妓  
 を統督とうとくするの任に當るものあり或は又殘粉剩香じやんぷんじやんかう未だ屈色  
 を春房にあらはさず天晴れ善き敵を組くみふせんと稼かせぐもの  
 ありければ遊客の顛鸞てんらん例鳳れいほうを欲するもの先づ此等の老妓  
 に謀はかりて艶媒えんばいを頼むときときの或あるは衾枕きんしんの價あひを費すして容  
 易やすに巫山の目的を達するを得るの老妓の手術ていじゆつのためあら  
 め名妓との姿色の美技藝びぎぎの巧あるもの名妓の稱を附しぬ  
 るものあり然れどこの眞成名妓の稱呼に愧はぢざるものもの僅ま  
 々ま數かずふるばかりありし其故ゆゑに二九にじゆうからぬ筭年さんねんの春を迎ふ  
 るころよの艶愛せられ氏うぢあくして珠興たまのこよのり脱籍だつせきにける  
 より稀まれなるならめうしさて又應來妓おんらいぎといふことあり應來  
 の字意あざなあての解げせざりしも時ときも顛倒てんたうする妓の事こと取とりこの

柳巷に住める校書中應來からざるもの幾干ありやこれを箱奴に聞く殆んどこれあしと謂ふも可あるべし但其間甚だまきと甚しうらざるの別易きと難きの差あるのみと今夫れ應來の價金を問へば其最も貴きものといへども二十圓を抛ちて艶戦又應卜來らぬものなく其最も低き半圓に半圓乃至一圓として結構ありといへり則ち老妓名妓の中お於てこれを求むるかたきにあらず其尤も助倍根性と慾張精神とあるものゝ如きハ彼れよりチツに艶話を吐きおウし赤目付しつゝ客は電氣を起さしむ尙其甚だしきものお至りてハ手洗の伴おうち淨水ばちの側にて怪き聲を出し本當に此度ハお獨で……連ていつて頂戴ナおとハの間お客の背中を一打してチウと唇尖をちらすものあり此等の客ハ狎客熟客ばかり又然かするにあらざるとかこれガ

離妓とよびぬるものハ池塘未だ春草を生せず紅を染めざれば殊も愛らしく其酒席を助けぬる間も亦多少の妙趣ありて下等藝妓の醜拙あるものに比べなハ廻り優りてける況んや其技の超絶にして舞踏拵戦を善くし搥鼓弄絃の巧あるものお於てをや柳巷歌妓普通の身價ハ一本金五十錢離妓ハ半價あり其晝夜通して仕舞るが如きハ各處よりて多少あり増減あり一様おらず纏頭ハ大妓に一圓小妓に半圓を通常とす殊に其妓ハ艶情あるものゝ如きに至りてハ各其人の適宜あるのみ

劇場

新富座 新富町にあり初め淺草猿若町三丁目ありて守田座とよびたりしが明治五年今の地に移りて新富座とあらためたり高菱巍峨として曉烟を破りて聳へ宏壯昌盛兩

かがら都下第一とす俳優も  
 亦萃を抜き英を摘みてける  
 毎歳例して場を開く三四回  
 毎回概ね四五日に亙りぬ  
 其演する所の戯の古來流轉  
 の戯あり或は現下新案の戯  
 あり義經千本櫻、忠臣藏等の  
 古來流轉の戯にしてノルマ  
 ントソ沈没憲法發布の賑ひ  
 等の現下新案の戯おして聲  
 譽高く頗る大入まてける所  
 あり毎戯概ね九齣よして朝  
 より夕お至りて打出しとあ



す戯場の結構正面の高き所を戯場とあす戯場の下稍低き  
 廣場を土間といふ縦横も區劃して方形をあす故にまた升  
 ともよべり升の左右及び前面の高き所を棧棚とあす棧棚  
 の下を鶉といふこの鶉の所と土間との中間稍高き所を高  
 土間といふこれ等の所は皆観客の居る所おして其價は各  
 其所によりて差等あり一と間六人を容るが通例とあす又  
 戯場の左右に棧道ありこれを花道といふ花道の傍らを溝  
 とよぶまた看客の居る所あり戯場と相對へる棧棚の後ろ  
 に柵を設けて隔てたる所に場あり多くは近傍の小兒か通  
 り過ぎぬる寒生輩がちよつと一と齣立ち觀をあすの所と  
 あす一齣の値僅に二三錢も過ぎず故に一齣毎に値を收む  
 この場戯場を隔つること遠うりければ技藝を見て音容を  
 彷彿の中に聴くお過ぎさりし故に其値の廉なるも亦宜あ

り俳優打粉装束をあすの場は三層樓にあり故に戯場を見  
 たるものは誰でも三楮といへば俳優の打粉装束をあすの  
 場たるを知りてける其他團圓より燈器み至るまで美麗あ  
 らざるものさく又備り整なはざるなし就中にも土間の正  
 中に二條の瓦斯燈を吊下ぐるが如きもし夜に入れは華燭  
 燦然として場内にあるもの夜もまた夜と思はざりし程に  
 てありき場を開く必らず場の簷下も數多の匾額を掲げて  
 當時演ずる所の戯部の状を寫し出だせり其寫す所の畫様  
 の何だか無器用たらしく例ば室のさま人の影眞のものと  
 の大違ひにて可笑見よくもあらねばこれ等こそ演劇矯風  
 改良あるからに一番先き改良して欲しきあり其下面も  
 數人臺上もありて話噪客を呼びて入らつしやいと既に  
 おして來るもの幼あり老あり男女貴賤袂を連ねて入り

來りにける其中直ちに場裏も入るものと別な茶屋に到り  
 て案内さするものあり其直ちに場に趣くもの下等客に  
 して茶屋に到り案内さするもの上等客にてありし看客  
 已に茶屋も投じ茶を契し烟を吹き演戯の初まるを俟ちけ  
 れば其將に幕を開に垂とするも當り亭婢亭僕案内しつ  
 ゝ戯場の豫て設けの棧棚或は鶉等の處に到らしむ其幕の  
 畢るにおよんで又此に歸りて茶を喫し烟を吹く且菓子  
 を呼び酒肴を命ずるも唯これ其好む所のまゝあり凡そ演  
 戯の間茶屋の壯丁一と幕畢るごとよ來りて何か御用い  
 さいませんうおてらす如何さまと且茶を供し菓を供す  
 るが例なり己は正午およべば行厨を供しぬ時と客酒肴  
 を欲しぬれば咄嗟の間おこれを整へ來る通例この時分に  
 當り演ずる所の戯曲俳優の列名等を明記したる小冊子を

も供すこれを番附といふ其待遇懇切鄭重を極めけるこの時客概ね二三十錢の纏頭を壯丁と與へぬれば其伺候愈よ切みして懇切周到盡さるるなし故に若しこれを與へんと欲しぬれば其最も速りあるを可とす客の中往々數齣ありりて後これを與ふるものありしが嘗て其功少きのみならず却て氣の利ぬ奴と笑ひを取りぬるに常ありき茶屋の新富座と屬するもの凡そ二十戸新武藏屋、上総屋、相模屋、越前屋、紀伊國屋、菊岡、梅林、川島等として時々盛衰あり變遷あり一々記しがたし凡そ都下の人其屢々戯場と到るもの概ね一定の茶屋ありしあり故に若し初めて到りぬもの宜しく其最も善き所を擇ぶべきとあれ美を好み麗を喜ぶに誰しも同じ人情の常あるればこれが茶屋たるもの皆外觀の美麗を競ひて庭園を雅麗にし筵席を瀟洒

にしてまこと愛すべきやうあれども其實皆富有あるおあらざる上も一年三百六十餘日中演戲あるの日の凡て二百餘日に過ぎざれば其餘の百餘日の即ち素餐徒食のときにして其實の想ひ知りぬべきことあらめ故に其善き所を擇びて……注意するも若しぬあり俳優の其最も名あるものを列敘すれば成田屋市川團十郎、音羽屋尾上菊五郎、成駒屋中村芝翫、高嶋屋市川左團次、新駒屋中村福助等おして其他一々擧ぐるに遑あられれば畧しぬ就中にも新駒屋中村福助の近來の評判ものにて技藝の巧拙の暫く捨きて其技を演ずるごとに毎お大入をとり其名聲都下に噪ぎぬ中村座 淺草鳥越町にあり新富座と次げる劇場にして其結構も亦これと次げり近時場を開くごとに評判よく其名

聲大お都下に揚りてけるこれ亦新駒が演る故ありといへり亦茶屋に河内屋山田屋等數戸あり其觀劇等の事敢て新富座演劇お到ると異あるありき

千歳座 久松町あり中村座と顔頑すべきの劇場なり

市村座 浅草猿若町あり猿若町の舊劇場本色の地ふして劇場といへば猿若町のみ思ひつる程よて頗る繁昌おしたりしが己に守田座とよびし新富座も新富町よ移り猿若座も亦衰頽して其跡の僅に文樂座とよべる純帳の最も下等あるものとあり市村座も已よ下谷二長町よ移轉の事とありて地均等も出來たりしよし然れば亦遠からず引移りどありぬべし故お今日の餘り繁昌とい申し難し茶屋も亦廿餘戸あり客の扱ひ等何れも同じければ略してける

春木座 本郷春木町あり本所相生町の壽座浅草公園地

の吾妻座と共に中等の劇場あり吾妻座の創設以來僅に二年に過ぎざりしも場を開く毎に大入ありて最も評判よかりし

柳盛座 浅草柳原町にあり浅草公園地の常盤座下谷竹町の倭坐芝森本町の森元坐高砂坐開盛座と共に下等劇場にして俗よんで純帳演劇といへるものなりこれ等の劇場を稱して純帳とよべる其幕を横よ引かずして上へ巻き上るに起因つるありと然れども近時は皆横よ引けるやうあり抑も維新前までの兩國廣小路木挽町采女お原等の地に茅筵ばりして疎末ある板もて場を造りしものあり其ころこれを稱してオデッコ演戲とよび又一戯場の觀をあしたりしが其己に取拂とあり或の他よ移轉するもの等ありて今のオデッコとよぶものおし其替りよ純帳とよべるもの

出来にけるの世の變遷につれて勢の然らまむる所あるべ  
 けれ近時お至りてこれ等の劇場殊の外繁昌して勸善懲  
 惡の技を演ト或の活歴史と誇りたらん其中に馬の足如  
 きの俳優が男娼もどきの狂言をかしぬるは明治聖世を汚  
 すの所行よしあれば改良して欲しきことどもありき  
 さて一とたび歐洲演戯てふ事を説くものありてより近時  
 演劇矯風會おといへるもの出来て從來演劇の習慣を一洗  
 し務めてこれが改良を熱心よ計畫せらるゝと聞けば遠う  
 らず演劇技藝の上に美花を咲かし善良の結果を呈し遂に  
 我邦の演劇を去て歐洲よ誇示しするに至らんこと豫じめ  
 期すべく嗚呼亦盛あることあらめ

東京土産畢

明治二十二年十一月三日印刷  
 同 年十一月十八日出版

正價金六十錢

編輯者

神奈川縣平民

原田眞一

東京池草區榮久町二十二番地

發行者

林平次郎

全日本橋區箱根町八番地

印刷者

鈴木吉

全東京池草區山川町一番地

豐玉堂

隅田英次

全神田區一ツ橋通町十五番地

硯海堂

本多常作

全京橋區南傳馬町二丁目十二番地

文玉圃

吉川半七



發賣所







